

(様式第1号)

研究No.  
(記載不要)

15 - 文 - 5

平成15年度配分 研究成果の概要

研究名	近代国家建設期における民間信仰と民衆運動				
配分を受けた 特別研究費	文化政策 学部長 特別研究費 1,100 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	国降文化	教授	山本幸司	世直し一揆の思想
共同研究者	同上	同上	助教授	孫 江	日中近代国家と 民間信仰
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 号 ( 年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日
	③ その他 山本;未定 発表の方法: 孫:「中国研究月報」(号数 未定) 「愛知大学国際問題研究所」 124号(2004.9)			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

本年度の共同研究テーマ「近代国家建設期における民間信仰と民衆運動」は、前年度の共同研究テーマ「日中歴史意識の比較史的研究」をさらに発展させ、具体的なテーマのもとに、社会史分野における日中史学の共同研究を行うことを目的とした。前年度は実証的検討よりも方法論的検討に重点を置いたため、理論的・抽象的側面が強く、実例による理解の点では不足する面があった。そこで今回はさらに進めて、具体的に宗教意識と社会変革との関連に焦点を当て、日中両国の民衆運動の中に、この問題がどのような形を取って現れるかを検討することとし、山本は「世直し一揆の思想」と題して、江戸時代の百姓一揆における世直し願望と宗教意識との関連について研究し、孫は「日中近代国家と民間信仰」と題して、日中両国の近代化過程において民間宗教に対して国家がいかなる態度をとったかを比較考察した。現在、中国における社会史研究は日本史学界に比べて後進的状况にあり、この共同研究の成果は中国史学界にとってきわめて刺激的であるとともに、そこで得られた協働作業の成果は、日本史学界にとっても新たな視角を提示する可能性がある。

(研究の実施方法等)

当初、研究の二つの柱として、①共同研究者2名の合議によって、本学図書館には極めて乏しい、日本及び中国の民衆運動・民衆宗教に関する基礎文献を収集すること、②各人が研究を進めた成果について意見交換を行い、完成稿を『新社会史年鑑』第二号(浙江人民出版社)に掲載し、同時に活字媒体による発表とは別に、『新社会史年鑑』第二号の執筆メンバーによって中国で開催される研究会において口頭発表を行う、という二点を予定した。このうち①については順調に推移したが、②は中国における SARS 発生により、研究会の開催は断念せざるを得ず、また『新社会史年鑑』の刊行も大幅に遅れたため、発表媒体ならびに発表機関については、両名が個別に検討することとなった点は、遺憾である。

(得られた成果等)

上記のように不測の事態により、日中の学界レベルでの交流は実現できなかったが、近く発表される予定の両者の研究成果を合体させることによって、近世から近代にかけて日中両国の国家建設期において、民衆宗教がいかなる意味を持ったかを描き出せるのではないかと考える。これは従来民衆宗教の歴史的価値に対して懐疑的な傾向の強かった中国史学界においては、問題提起的な意味を持つであろう。また日本史学界においても、国家を超えた規模での民衆運動の共通性を考える上で、極めて有益である。